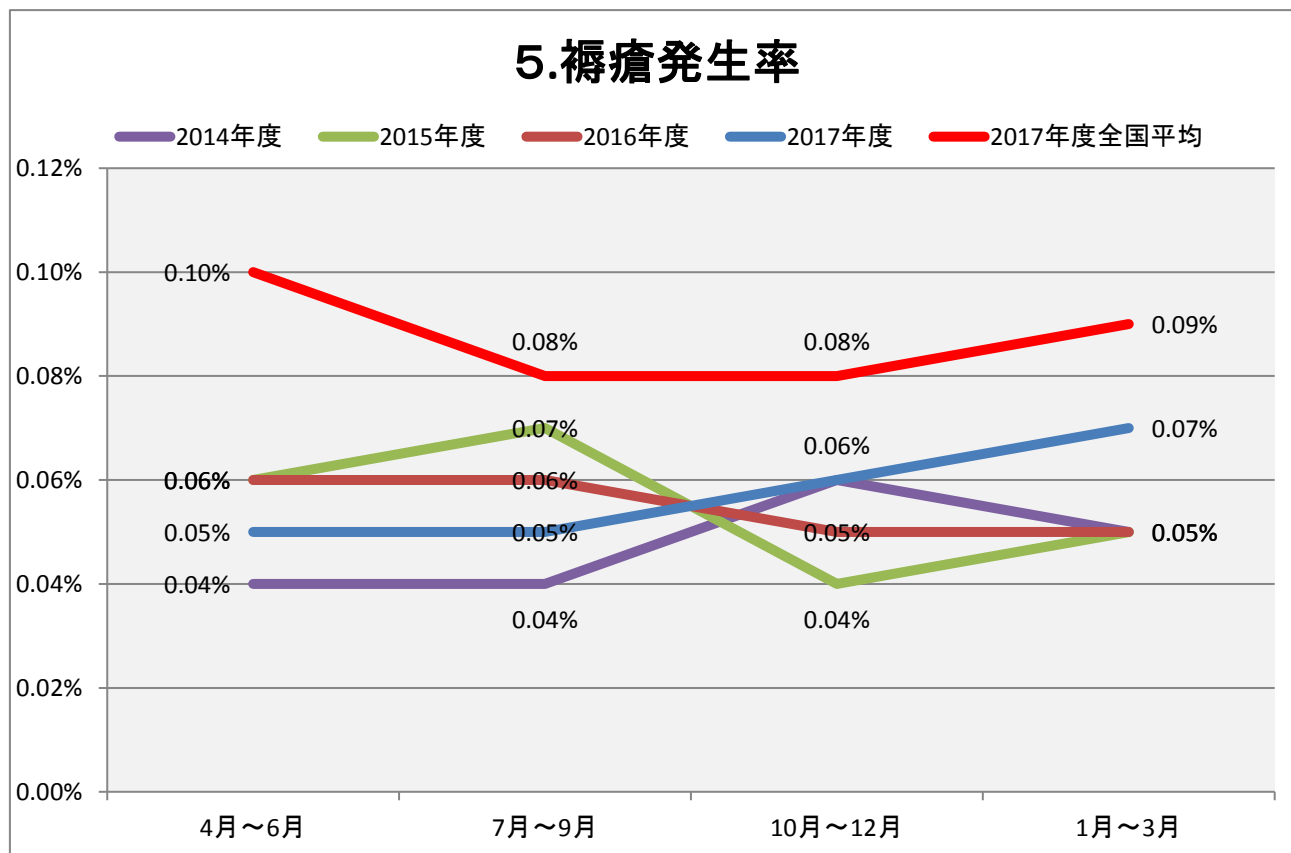


5.褥瘡発生率

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2017年度	0.05%	0.05%	0.06%	0.07%
2016年度	0.06%	0.06%	0.05%	0.05%
2015年度	0.06%	0.07%	0.04%	0.05%
2014年度	0.04%	0.04%	0.06%	0.05%
2017年度全国平均	0.10%	0.08%	0.08%	0.09%

(2) 指標の説明 褥瘡は、看護ケアの質評価の重要な指標としてとらえられています。褥瘡は、患者のQOL（生活の質）の低下をきたすとともに、治癒が長期に及ぶことにより、結果的に入院日数の長期化や医療費の増大にもつながります。

(3) 定義 分子：調査期間における分母対象患者のうち、d2以上の褥瘡の院内新規発生患者数
分母：入院延べ患者数

※褥瘡の深さ

- d0: 皮膚損傷・発赤なし
- d1: 持続する発赤
- d2: 真皮までの損傷
- D3: 皮下組織までの損傷
- D4: 皮下組織をこえる損傷
- D5: 関節腔、体腔に至る損傷
- DU: 深さ判定が不能の場合

(4) 考察 当院では、褥瘡対策チームによる、定期的な回診を行っています。またスタッフ業務の改善や褥瘡発生対策の検討を行い、日々褥瘡発生の抑制に努めています。